NPOふくてっくロジックモデル

平成２３年１０月１日版

ロジックモデル策定の意味

ふくてっくは、その最も尊重すべき基本原則として、会員の関係性がフラットであり
誰もその意思や活動を強制されることがないということを大前提としています。
また、他の多くのＮＰＯ・市民活動団体と違い、特定の地域、特定の活動目的に固執せず
福祉を広い概念でとらえているために、参加メンバーの思いの数だけ活動も多岐に亘ります。
さらには、殆どの会員がそれぞれに生業をもち、ふくってくに専従しているわけではない事も
類例を見ない大きな特質です。
その様なふくてっくにおいて、ロジックモデルを策定する意味はどこにあるのでしょうか。
会員の中には疑問を持たれ、戸惑われた方も多かったはずです。
しかし、実はだからこそ、そして上記に上げたいくつかのふくてっくの特徴故に、この試みが
必要だったのです。
営利会社とは違って、構成員を縛る規律を否定するかわりに、将来に対する明確な指針を共有する
ことが欠かせません。そしてそれを内・外に明らかにして行かねばならないのです。
そうでなければ、私たちがふくてっくに集い、行動を共にして行く意味がないではないですか。
この度、各部会、多くのメンバーの思いをまとめて、以下のロジックモデルとしました。
これは、ふくてっくが目指す最終成果、そしてそれを実現して行くために長期・中期・短期に
何を成し遂げ、そのために何に取り組もうとしているのかを示しています。
それらは夢でもあります。高い理想です。しかし決して実現不可能な空論でもありません。
ふくてっくの理念を具現化する基本方針です。
それでも、ここに列記する計画は決して会員に強制するものではありません。
大いに賛同して行動するもよし、各自の許容範囲でできることに参画するもよし、しばし観覧して
楽しみつつ充電するもよし・・・
ただ、少なくともふくてっくが何を目指し、何をしようとしているのか、そして自分は今
そのどの位置づけにいるのか、ということは認識していただき、共にふくてっくを誇り、
ふくてっくを愛してほしいのです。　　さすれば、なすべき事は見えてくるはずです。

最終成果

市民社会の 成果	**人を尊重し、手をつなぎ合える社会** 多くの市民が他者依存性向を 脱却して、同時に市民主義の刹那的限界を超え、 責任ある立場で企画と実践を主導し、誰もが住み慣れた地域で 明るく豊かに暮らせる社会を実現する。 物理的にも精神的にもバリアフリーな社会になり、 誰もがその人らしく、安心して暮らして行ける。 『共（協）助ある社会』　　～みんなの“楽”社会～
ふくてっく の成果	**ふくてっく＝「自己実現への近道」** 高齢者・障がい者・幼児・子ども・・ あらゆる人々にとっての“楽”を 仕掛けられる組織 。　“新しい公共”に相応しい使命を担える団体。 活発にボイス機能を発揮し、社会的に広く認知されるとともに、多くの団体と連携して協働活動を展開する。　　それはすなわちメンバーの自己実現に繋がる。
メンバーの成果 自己実現	**社会貢献と達成感** 各々の意思の違いや、行動スタンスの違いを容認し、各自の思いにおいて、 充実した人生を確認し、すばらしい仲間との出会いに感謝する。 チャレンジ精神を開花し、ポジティブな人生を体感する。

ロジックモデルの読み方：ふくてっくの最終成果→必要な長期（概ね 10 年）の成果→これを達成する取組
→必要な中期（概ね 3～5 年）成果→中期の取組→必要な短期（概ね 1 年）成果→そのための短期の取組

A　執行部課題

A１　経営健全化

長期	成果	理念を共有できる会員が増加し、アクティブな活動が展開される。
	取組	多様な事業展開を推進
中期	成果	新たな事業・活動の企画推進。 ネットワークの拡大　　（個人・団体との）新たな出会いにより、会が活性化する。 事業収益を固定費に充てる体質を解消して、積極的に社会還元（不採算ながら意義ある活動の支援）に充てることによって、ふくてっくの活動を活性化して新時代を迎える。
	取組	固定費は固定（安定）収入で賄えるシステムの構築に取り組む。 事業収益を固定費補填するのではなく、最大限社会還元する取組を強化する。
短期	成果	執行部主導で、このロジックモデルをまとめ、会員に提示して議論を興す。 会員間で理念を共有する。　　行動するシステムの確立。 これにより、定款等を改訂して組織の根幹を再整備。 固定費を固定収入で賄うことについての根本的な議論を踏まえて全会的コンセンサスを形成し、不安定な事業収益に依存しない経営体質を確立する。 認定ＮＰＯ資格取得の要件づくりも勘案して、寄付を受け入れる体制を創る。
	取組	運営システムの再構成。・・・既に理事担当を決めるなど、かなり進展している。 定款等の見直し・活動の見直し。 固定費を再考し、その負担の対処方法や、収支の継続的安定化についての執行部意思を根本的に見直して、明確に打出す。

定款の見直しにつては 10 月半ばを目処に、事務局長がたたき台を作成し役員間で討議（メール利用）
11 月に市と協議に入る。

A２　認定ＮＰＯ取得

長期	成果	健全でゆとりある財政を背景に積極的・効果的な社会貢献事業を展開する。
	取組	広範囲の寄付受付
中期	成果	遅くとも、ふくてっく 20 周年（平成 25 年）をめどに認定ＮＰＯの取得を実現する。
	取組	認定条件の整備 ①寄付を受け付けるに値する、意義ある社会活動実績の確立とその情報発信 ②23～24 年度に亘る 3000 円×200 口の寄付実績 以上、２大要件を充足
短期	成果	寄付者の負担軽減を実現して、寄付を受入れ、 会費の軽減や活動の活性化を導く。　（寄付による会費の軽減には疑問も） ふくてっく全体の中長期計画を踏まえた全会的コンセンサスの形成が不可欠。 まずは率先して執行部の意思を明確にする。 受け入れた寄付の活用方法を内外に明らかにすることがなにより大切。
	取組	早急に認定ＮＰＯ資格の取得に動くべし（畑）。 認定の意味・負担を徹底議論 ・先行事例の実態研究 ・識者の意見収集

認定ＮＰＯ取得については、執行部内でもまだまだコンセンサスは得られていません。
もっとも大きな課題は、ふくてっくが市民からの寄付を継続して頂ける社会貢献活動団体として、成熟しているのかという疑念です。
従って、認定を急ぐべきか、会の体制と活動実績を整えることを先んじるべきか、或いは走りながら考えて行けばいいのか、というところで意見が一致していません。
また、仮に寄付がいただけた場合のその使途や、寄付者に対する責任もないがしろにはできません。
認定要件である２カ年度に亘る 200 口の寄付集めの手法についての守るべきモラル性も議論を必要とします。　当面、12 月に公表が予定されている仮認定要件の内容を見極めて再討議することとします。

Ａ３　例会運営

長期	成果	在宅でも参加体験できる定例会の実現 生き生きとした会員の笑顔
	取組	インターネットを活用した例会（動画）紹介の実施
中期	成果	毎月の例会こそが、ふくてっくの核心となる。　そんな例会に！ 会員の意識の共有を図り、会員の定着率を向上。 活発なコミュニケーションの場となる。 同時に非会員の参加増大（会員増強の大きな力となる）。 例会の“情報サロン”機能を高め、多岐に亘る情報と出会い・交流の場とする。
	取組	例会の充実 例会に不参加がちな会員の意識改革 外部参加者入会勧奨
短期	成果	会員の参加率の向上（楽しく・意義ある例会の実現）＝参加して実りある例会 外部参加者の増員（同上の他、効果的な情宣活動の実施） ＝新メンバーを引きつける例会 学習会の価値向上（計画性・確実かつ迅速な記録）＝結果が活用できる例会 学習会による　会員のスキルアップと相互理解を深める。
	取組	役割分担の再確認をして楽しく意義ある例会の実現に取り組む。 テーマに基づきシリーズ化した学習会の実施

これまでは部会に直接入会するメンバーへのふくてっく理念の周知を軽視してきた経緯があります。
今後は新規参入メンバーへのふくてっく理念の周知に重きを置き、一方で例会参加こそがふくてっくライフの中心となるように、例会内容の充実を図ります。

Ａ４　企画　　担当：清水理事

長期	成果	30周年祝賀事業
	取組	活動記録誌の発行
中期	成果	20周年記念事業の実施 これまでの実績を祝い、これからの活躍を誓う。 多方面から来賓を招いて開催。→連携・協働団体が拡大する。 交流がさらに発展して、新たな活動テーマを発見する。
	取組	20周年記念イベントに取組む。　（冊子発行・シンポジゥム等）
短期	成果	執行部が中心になって意識して方向性を示し、会員の共通認識を高める。 会員の親睦と相互理解を深める。　新たな活動のきっかけを創る。
	取組	ふくてっくの目標の旗を掲げる。 会員全員を対象とした参加しやすいイベントを実施

ふくてっく会員の全員が参加できる企画を立てて行きます。
現在、検討に上がっている例は、
①タウンウォッチング　町田市で行った活動の大阪版。　障害者とともに町を歩くことも検討
②解体予定の建物を活用して、建物の仕組みを学ぶ機会

Ａ５　事業　　担当：畑　理事

長期	成果	ふくてっくの「来る者拒まず」という、待ちの姿勢から発展的に脱皮して 社会に対して出向いて行く姿勢に転換。
	取組	
中期	成果	
	取組	地域活動に活発な取組を実践。
短期	成果	収益事業と、非収益性ながら社会的に意義ある活動とのバランスを明確にして、 会員間の理解と合意（コンセンサス）を得て、忌憚なく活動に取り組める環境を実現する。
	取組	事業活動の取組と継続 収益性と社会貢献性を吟味し執行部主導で活動を推進する。

部会活動とは別に、単発のプロジェクトを推進し、あるいは各部会を支援して課題を克服して行きます。

Ａ６　渉外　　担当：中北理事

渉外の基本方針

基本方針は「ふくてっくは何を担えるのか」にあります。

外部連携で何を得ようとするのかではありません。

長期	成果	NPO から CSO への発展的転身
	取組	行政・企業・市民活動の協働システムを主導
中期	成果	“新しい公共支援事業”を成就する。 複数機関との協働事業を「ふくてっく 20 周年記念」として実現する。
	取組	各機関等との協働によるプロジェクトを推進　（単なる会合参加を脱皮）
短期	成果	連携先各団体・個人との関係性の明確化 （ふくてっくは何を得、何を担え得るのか） 個人の付き合いではなく、ふくてっくとしての渉外活動を確立 連携する諸団体との関係性を会員に周知することにより、関わりの積極性を育む。
	取組	諸機関・団体との関係性の強化と見直し（整理と復縁・開拓）を進め、 外部連携の状況を会内部へ周知する。

有ボ連

長期	成果	行政との協働による“新しい公共”事業の成功
	取組	有ボ連 vs 行政 協働事業を企画する
中期	成果	参加団体を増強して、具体的な協働プロジェクトを発信
	取組	有償Ｖの拘りを脱して市民活動連合を再確認
短期	成果	今年度予定の事業（地域防災フォーラム？）の協働を成功させる。 協働事業を通じて所属諸団体の相互理解を深める。
	取組	有ボ連への参加を継続し、各団体との連携を強化する。

大阪ＮＰＯセンターとＯＣＶＩＣ

長期	成果	協働事業を通じて、より多様な団体との連携を実現する。
	取組	各機関主催事業に参画
中期	成果	何らかの協働事業（中間支援活動）を実現 Ｅｘ．　第三者評価活動の拡張による福祉ＮＰＯの活動支援 ふくてっくが役割を担えない関係性ならば、連携を整理することも選択肢
	取組	大阪ボラ協その他も含めて大阪における活動諸団体との関係性を総括する。 ふくてっくは何を担えるのか
短期	成果	単なる会費納付会員・名簿記載会員ではなく、より深く関与する関係性を開拓。 関係者との親交を深めて人的ネットワークを拡大する。 ふくてっくとの関係性をふり返り、これからの協働を“形”にする。
	取組	大阪ＮＰＯセンター　及び　ＯＣＶＩＣ　との関係性を再検証

その他諸団体

長期	成果	行政・企業・市民活動の協働を活性化する。
	取組	各地域・各団体の特性に基づいて、関係性を常に評価し、吟味する。
中期	成果	協働して　①事業を成功させる ②市民の立場から社会制度改革を提言する。 そのほか　③風にのせて他の地域に、ふくてっくの“一粒の種”を運び根付かせる。
	取組	それぞれの機関との関係性において、ふくてっくの役割を担って行く
短期	成果	府・市の健康福祉関連行政および外郭諸団体との関係性を復活または創成する。 ななとこ庵、青葉園、中部などゆかりの諸団体との絆を強化してゆく。 宅老連、老施協、社会福祉士会等々、未連携の諸団体との関係性を創成する。
	取組	その他諸団体との関係性を吟味

パーティパーティ（有ボ連メンバー）とゆめ風基金が計画している 11/23“ポジティブ生活文化交流祭”に参加します。

Ａ７　開発　　担当：苅田理事

長期	成果	全てのメンバーが“必要とされるひと”となる。 ふくてっくの行動範囲が拡張。
	取組	
中期	成果	会員個々の特性を確立して、物づくりによる福祉環境の整備
	取組	目標に向かって積極的にチャレンジ！
短期	成果	“ふくてっく式”の物づくり手法を確立する。
	取組	物づくりの新しい展開

ふくてっく式物づくりとは？
ふくてっくは「物づくり」が活動の基本要素です。しかし、プロ優位の集団ではありません。
あくまでもアマチュア精神と市民の視点を大事にする。だからこその良さがある。
そこにふくてっくらしさを見出し、すべての会員がかけがえのない存在になることを目指します。

Ａ８　広報　　担当：和泉理事

長期	成果	情報発信による社会改革
	取組	NPO 法人としての“ボイス機能”を発揮して、提言を繰り返す。
中期	成果	新規に他団体との交流を生むきっかけづくりとする。 様々の活動機会をとらえて利用（積極的に配布）し、ふくてっくの紹介に努めることにより、会の理解と信用を得、合わせて新規会員獲得にも寄与する。
	取組	会報の配布先・配布方法を拡充する。 チラシの作成に取り組む。"
短期	成果	外部にアピールできるツールとする。 ふくてっくの理解に役立てる。 入会者のフォローに活用 →初参加者や新入会員に「広報セット」を渡して歓迎のメッセージとする。
	取組	リーフレット・ＨＰ・ＨＰ紹介ちらしの作成、会報の継続発行 内輪の議論に終始するより、ともあれ広（公）報しよう！

現広報チームメンバーに再確認するとともに、新規メンバーも募って、広報チームを再発足します。
各部会活動その他の機会を捉えて、ふくてっく広報資料の配付に努めましょう。

Ａ９　親睦　　担当：杉浦理事

長期	成果	他の NPO との協働事業の実現 会員の若返りと活動の活性化
	取組	他の NPO 団体との交流 新入会員のさらなる増強（目標 30 名）
中期	成果	富山共生型デイ（このゆびと～まれ）などの視察ツアー実施 若い仲間を増やして（目標 10 名）やがて活動の中核となる人材に育成する。
	取組	会員の親睦と研修を目的とする旅行を企画する。 新入会員の増強を図り、その研修会を実施する。
短期	成果	会の理念・方向性を皆で理解　→　ふくてっくを１つに 新入会員にふくてっくの歴史や理念・方針を正しく理解させ、活動への積極参加を促す。
	取組	会員の親睦事業（年２回） 新入会員にふくてっくの理解を深める研修を実施する。

親睦は、杉浦理事を後藤秀樹会員が補佐し、上記の取組を実施します。
目標とする処は現会員の親睦は勿論、新入会員を会に速やかに溶け込ませて活発な活動参加を導き、
将来の中核メンバーに育成することにあります。
また、会員増強と若返りも重要な課題です。

B　部会課題

B１　住環境研究部会

ふくてっく創生期と違って、今や住宅改修がすっかり民業の営業対象となった時代における、ふくてっくのミッションとは何か？
その一つは、東大阪部会に派生した民業成果の適正検証および地域支援があります。
これはある意味、いわゆる中間支援型ＮＰＯ活動と位置づけられます。
対して住環境研究部では、なお直接的な住環境改善活動を目指そうとしている処ですが、
そこにも主として研究と啓発活動を主眼とする立場と、住環境改善の実践を主眼とする立場があります。
住宅改修部を改組して住環境研修部とした際に、その当たりの趣旨についても認識の一致をみないままになっていました。
このため、下記のごとく様々な意見があり、今後の議論に委ねることになります。
ただ、いずれにしても「民業では及ばない」あるいは「民業が見捨てた」部分を担うことが、ふくてっくのミッションであることは間違いないところです。
活動に参加するメンバーは多かれ少なかれ、何らかの形で本務との関係性を有しているわけですが、本務で関わる住環境づくりと、ふくてっくで関わる住環境改善の立場にけじめを持つこと、そしてそのけじめをメンバーで共有することが大事です。
その差違は、メンバーが「何をもって報われるか」にありそうです。

畑リーダー　　最終成果の①②③はそれぞれ、「社会の成果」「ふくてっくの成果」「会員の成果」

最終成果		①みんなの幸せ　②仲間の幸せ　③私の幸せ
長期	成果	社会の真の幸せを実現
	取組	
中期	成果	
	取組	精力善用・自他共栄の精神構築のための自己研鑽
短期	成果	自分の幸せ、まわりの人々の幸せ、ふくてっく会員の そして会員の家族・友人・知人の幸せ
	取組	人間の無知から生じる悲劇を抑制する様々な啓発活動。 会員の積極的社会参加。 住環境改善に関わる諸制度や隠れた危険性を市民に判りやすく伝える活動をする。

小川会員

最終成果		①安心・安全な住環境の実現　②住生活提案ができる団体　③住環境知識の向上
長期	成果	組織（全員）で取り組む実践体制　社会貢献ながらも経営的に破綻のない安定活動
	取組	在宅（住宅改修、福祉用具、生活改善など）の継続支援
中期	成果	在宅・施設の改善提案と実践
	取組	在宅（住宅改修、福祉用具、生活改善など）の継続支援
短期	成果	（高齢・障害）住環境の把握　住宅改修フローの見直し
	取組	在宅（住宅改修、福祉用具、生活改善など）の継続支援

島村会員

最終成果		①高齢者（自分も含め）の生きる源となる　②自分の目標の達成の過程での仲間づくり ③幸せと生きる力と目標と仲間
長期	成果	各メンバーなりに自分の手段や活動に賛同する仲間を作り、かけがえのない人材となる。
	取組	専門的な知識は微力でも情熱と信念を持ち、何事にもペース配分を定めやり遂げる。
中期	成果	微力でも自分ができる事を定め、具体的に月単位で目標を立て学び動く場とする。
	取組	自分が実行できる事について定める。
短期	成果	部会内容について事前に考え、積極的に意見を述べる場とする。
	取組	部会に参加する

佐久川会員

最終成果		①良質な改修工事による安全な高齢化社会の実現 ②収益や新会員を得て、会全体として、より積極的な活動が可能となる ③実践を伴うことにより、常に技術・知識の質を高め続けることができる
長期	成果	「ふくてっくの住環境整備」の社会的認知度を高め、 社会全体の住環境の安全性に対する認識の底上げが図られる。
	取組	関連団体の講演会や独自の対外的学習会等を積極的に行い、常に外部との交流と最新の情報発信を心がける。
中期	成果	ふくてっくの住居改善の方針や基準を確立する。 介護福祉関連の理解者、賛同者を確保する。 改修工事依頼の増加、さらには新たな会員確保にも繋がる。
	取組	積極的な広報活動を行い、年間にある程度の改造件数を経験し、成果を検証する。
短期	成果	以前の住宅改修部のような受動的な姿勢ではなく、能動的に参加または受注できるような体制を整える 研究や学習内容の理解度を高める
	取組	具体的な現場や実際の工事を経験できる機会を増やす

清水会員

最終成果		①物理的・精神的バリアフリー社会の実現　②継続した社会貢献事業の確立 ③而立と成長
長期	成果	外部連携による事業企画
	取組	「新しい住環境」実現の取組
中期	成果	参加者の主体的な取組による計画的な活動。　外部連携・調査。
	取組	テーマに沿った住環境の提案
短期	成果	計画的な活動。　住環境施策の現状と動向を理解し、活動テーマを絞る。 例えば、「新しい住まい」「小規模多機能ホーム」等
	取組	具体的な取組テーマの決定

中北会員

最終成果		①市民とＮＰＯが自主的に創り上げる楽土　②類を見ないＮＰＯ活動 ③この世に生き、この会で活動できてよかった
長期	成果	個々の住宅改修という概念から飛躍して、“青空特養構想”など、地域に密着した 社会活動（まち改造）に及ぶ活動に発展。
	取組	実績を踏まえて、外部連携を強化
中期	成果	往時の“三位一体”に加え、改造後の生活改善を見守る機能も付加した“四位一体”の 住宅改修システムを確立し、ふくてっくならではの活動成果を上げる。
	取組	部会を再興して組織的活動に取組む。
短期	成果	①ふくてっくが担うべき住改のテーマ・対象を絞る。（民業に任せるべきは任せる） ②受注を実現する体制を整える。（待ちの姿勢から脱皮する） ③ニーズに対応できる体制を整える。（ボランティア理念の再確認と技術研鑽）
	取組	住宅改修事業を再び興すことを模索する。

受け身ではなく積極的に出かけて行くという意見に対して、「営業までして・・・」という意見もあります。
しかし、本当に困っている人は、声を出せない人のはず。
待っているだけでは、そうしたニーズに応えられない。
そして、それらはおそらく民業では技量が及ばないか、利益対象にならないと見捨てられた事象でしょう。
そこに応えるのがふくてっくではないでしょうか。
必然的に利益は望めません。
当然にボランティア精神が問われるところですが、担当する会員に犠牲を強いることなく、ニーズに応えることのできるシステムをふくてっくが作らねばなりません。

Ｂ２　研修部会

長期	成果	ふくてっくの社会的知名度の向上は会員増強に繋がり、 社会貢献の成果は、ふくてっくの社会資源性を高め、会員の誇りに繋がる。 そして、研修活動による収益性も向上する。
	取組	会員・市民向けの研修講座を定期化・シリーズ化して実施する。
中期	成果	ふくてっくによる社会貢献の成果を実らせて、社会的存在意義を高める。 これにより、会員増強にも繋がる。
	取組	会員の枠に留まらず、市民のニーズに応えた講座を、ふくてっくらしく実施してゆく。
短期	成果	会員のスキルアップにより、ふくてっくの人材に厚みが出る。 個々の会員は会員であることのメリットを自覚し、満足度がアップする。
	取組	会員のスキルアップを目的に、会員のニーズに合わせた講座を他部会等とのコラボで実施する。

現在は、研修の対象をふくてっく会員に限定し、テーマもごく限られています。
しかし、やがてはテーマも多様化し、対象も拡げて行きたいところです。

Ｂ３　木工部会

長期	成果	社会に「楽しみを与える」ことで貢献する。
	取組	コスト追求以上に社会貢献の喜びを追求する。
中期	成果	小さなニーズにも真摯に対応し、技術力と活動体制を維持する。 いつか部会活動を再度軌道に乗せ、独自の工房を復活する。
	取組	景気の回復を我慢強く待つ間、活動を継続する。 若いメンバー獲得を目指す。
短期	成果	木工部の存在意義を高めるとともに、 これによって、　①木工種目の新規開発　　②各地域の同調者を獲得。を実現
	取組	メンバーがそれぞれの地域に根ざした活動を模索する。 各地域で、定期的・継続的に実施できる木工活動を少しずつ実現して行き、部員の腕を磨く。

木工部では、この度取り組んだ青葉園に提供したプラットホームや棚の製作を、過日出席した夏祭りであれ程に喜ばれ、盛大な拍手で表現していただけた感動を大事にしようと、改めて活動意義を自認しています。
その思いを力に、ねばり強く活動を継続し、一日も早く工房を復活できる日を迎えたいところです。

Ｂ４　福祉用具部会

長期	成果	市民の生活改善に寄与しつつ、採算事業として確立
	取組	
中期	成果	ふくてっくの視点や技術を活かした物づくりの成果を実現 （例えば、“動くポールシステム」）
	取組	企業・学術との協働取組
短期	成果	学習の場なのか、事業（社会貢献）なのか？ 何を目標に、何に対して、どのように取組み、何を実現するのか・・・・ PDCA を実施して、活動の位置づけを再確認する。
	取組	社会になにを発信しようとしているのかを明確にする。

福祉用具部は、ふくてっく発足以来、様々な活動を志向してきましたが、このロジックモデル策定を契機に、ふくてっく式物づくりの原点に立ち戻って、何をなすべきかを再確認します。
そして、ふくてっくの視点で、ふくてっくのできること、求められていることを企業や学術との協働体制で進めてゆきたいと考えます。

Ｂ５　東大阪部会

東大阪での適正検証活動とそれに関する検証外活動

長期	成果	適正検証活動など必要のない社会
	取組	検証外活動の充実 地域支援者・地域活動家との連携充実
中期	成果	確立した検証システムを展開し定着させる。 活動成果を発表する。（ふくてっく２０周年企画）
	取組	検証活動の継続と 検証外活動の充実
短期	成果	検証活動（窓口業務を含む）のシステム化を完成する。 （システム化＝人の資質や経験に依らず、一定の機能を発揮する仕組み）
	取組	検証システムの見直し 近畿圏の類似活動団体との交流 府下における住宅改修支援制度の調査とその公表 ケアマネや地域業者を支援する資料（ワンポイントアドバイス）を発行する

新たに展開しようとする活動

長期	成果	高齢者向け住宅の建設（既存社会資源の活用） 運営は他ＮＰＯを主体にして協働　（ソフトにも関わる） →　そしてまた他地域に展開　（“かぜのひと”となる）
	取組	高齢者向け住宅改善提案を広域に展開
中期	成果	関係諸機関・団体とのコラボレーション体制の確立 （ふくてっく単独でできることではない。単独では単なる絵に描いた餅になる。）
	取組	高齢者住宅改善プロジェクトの立ち上げ
短期	成果	構想を実現して行くために克服すべき課題の抽出・把握 関係機関との協議を蓄積　→　外堀を埋める。
	取組	長屋・市営住宅等の社会資源活用提言研究チーム設置

尼崎市へ地域支援に向けた新たな検証企画提案

長期	成果	ふくてっくの検証システムが普遍化する。
	取組	他の行政区へのシステム転化
中期	成果	地域の福祉力が行政と協働して自浄機能を発揮する社会 ふくてっくは側面支援に退く
	取組	地域福祉力を向上することを目指す検証活動
短期	成果	尼崎市における検証活動の開始
	取組	尼崎市からの要請に応えて検証システムの提案

東大阪では、委託事業として始まった適正検証活動ですが、全くの受け身ではなく当初から可能な限り当会から問題提起やその克服提案をくり返し、少しずつではありますが、行政システムの改善にも主体的に取り組んできました。その歩みは遅々として歯がゆいところもありますが、５年に及ぶ活動をふり返ると確かな実績を確認することができます。
今私たちはようやく検証外活動の充実に取り組みはじめようとしています。
究極の願いは、私たちのような第三者機関が検証する必要のない行政システムと地域福祉力です。
そうして、個々の住環境改善を超えた、まちの住まい改善が目標です。
来年度から始めようと、尼崎市に提案している企画では、そうした経験を活かして当初から理想的なシステムづくりを念頭に置いているところです。（H23.10.1 現在取組は未確定）

Ｂ６　こむねっと事業部

①事業部体制

長期	成果	新しい公共のパイオニアを自認する。こむねっとはそのまま高齢化（平均年齢 70 超） それでも、いつまでも（心と行動の）活性を失わない。 「老老市民活動」こそ、「朗朗支援社会」の魁けとなる。
	取組	活発な協働プロジェクト推進。 オーバー65 の社会運動。高齢社会は高齢者が創る。若いもんには任せられん！
中期	成果	①マインドの活性化（心を興す）　　②活動の活性化（事業の推進） これにより、ふくてっく収支の完全黒字化を達成し、豊富な社会活動機会を設けて、寄付受入の意義を高める。→　結果的に認定ＮＰＯ法人取得の環境が整う。
	取組	ふくてっく内外に風を興す。団塊世代の活動の場を創設してアクティブメンバーを吸収する。
短期	成果	コアメンバーを中核とする執行体制を確立し、ふくてく内外の協力メンバーを組織化して、 ＣＢ機能を強化する。事業部規約を見直して、活動体制を見える化する。
	取組	新しい事業部会の組織づくり

②大阪府評価推進委員会・評価機関連絡会

長期	成果	府下の評価実績を平成 22 年度実績の 10 倍以上として、第三者評価が事業として成立する環境を実現する。 都道府県の地域限定枠を撤廃し、第三者評価を全国共通システムとする。 第三者評価の自由競争・第三者評価の第三者評価を実現し、第三者評価を優勝劣敗の世界として完全自立させる。
	取組	連絡会の機能を強化。　連絡会の法人化に取り組み、実現後代表幹事は勇退する
中期	成果	評価機関・評価調査者の資質を向上し、サービス事業者や市民の理解と信頼を深める事に一定の成果を上げる。 府下第三者評価事業の拡大（平成 22 年の５倍以上）を実現。 第三者評価事業の広域化（府県域限定の撤廃）に端緒を得る。
	取組	連絡会の発言機能の強化を図る。 評価機関を代表して、府推進機構、府下市町村、サービス事業所等々への働きかけを強化する。
短期	成果	①推進委員会委員として、評価機関の意見を代表して発言し、 　評価機関連絡会の推進委員会におけるポジションを確立する。 ②評価基準の錬磨（分野ごとのきめ細かな対応）に取り組む。 ③評価機関連絡会を単なる連絡会から“自立した運動体”に脱皮再編する。 ④他府県の評価機関・推進機構との連携の端緒をつかむ。
	取組	第三者評価（推進機構）評価機関連絡会の自立

③ふくてっくの第三者評価

長期	成果	年間に概ね 10 件以上の評価実績を達成し、事業採算性も確立する。 活動メンバーにも一定の所得を保障する。
	取組	内部研修機能を高度化し、評価調査者のスキル向上とメンバー増強に取り組む
中期	成果	有効かつ現実的な“ふくてっく独自の評価手法”を確立して、すくなくとも 3～5 件／年の評価実績を達成する。（検証においては収益性よりも内容の充実に重点をおく） 率先して「あ」「い」資格を厳格化し、機関の姿勢を正す。
	取組	児童福祉分野を活動対象に加え、評価基準の解釈・評価手法のきめ細かな対処システムの整備に取り組む。　評価者資格の見直しに着手
短期	成果	評価機関ふくてっくの体制（評価者構成・評価料金等）を一新。 すなわち、真に責任と熱意を持って活動しようとするメンバーに厳選して、有効な内部研修体制を確立し、スキルを向上する。　内外から趣旨に賛同する新メンバーを歓迎し迎える。 年度内に少なくとも１件の評価実績を達成。（←契約済み）"
	取組	第三者評価（ふくてっく）評価機関の体制再構築　　料金改定・ＰＲ活動

④ふくてっくの建物検査

長期	成果	事業活動を軌道に乗せて、ＬＬＰまたはＬＬＣを起業し、雇用を創出する。 （就職難時代の若者に社会活動と勤労の場を！元気な老人に活躍の場を！）
	取組	定期検査報告に依らない施設改修プロジェクトに、事業拡大
中期	成果	メンバーの個人的縁故に頼らない受注力を確立し、年に少なくとも６件の検査業務に取り組む。 検査だけの検査に終わらせず、検査後の環境改善への的確な助言を行える体制づくりを協賛企業との協働体を興して達成する。
	取組	検査実績を背景にノウハウを蓄積し、積極的に受注活動。 維持管理研究に、協賛する企業グループを結成する。
短期	成果	活動を再開して年度内に少なくとも２件の取組を達成する。（←契約済み） 他方で、医療・福祉施設の健全維持課題研究部会を発足する。 （←具体の検討依頼を得て、既に中期展望の活動開始）
	取組	建物定期検査報告活動を再開する。

こむねっと事業部では、今夏に活動再開を宣言し、上記のとおりの活動を展望しています。
事業部は、数名のコアメンバーによって活動を企画推進して行きますが、計画はあまねくふくてっく会員の全員に案内します。一部活動には資格要件がありますが、可能な限り全ての会員が参加できる体制を整えて行きたいと考えています。
短期の成果として予定している第三者評価１件、建物検査２件については、すでに取組の予定を確実としました。また建物検査を検査のための検査には終わらせないという構想も着々と実現しつつあります。
大阪府における第三者評価もようやく活性化の兆しが見え始めました。
今後とも、ふくてっく内外からアクティブなメンバーを募って、活発な活動を展開してゆきたい処です。

Ｃ　特別プロジェクト

Ｃ１　ブラインドパソコン教室

長期	成果	障害者社会参加促進機能を確立
	取組	広く障害者の社会参加・就労実現に向けた支援活動に取り組む
中期	成果	ブラインド向けパソコン教室の実施
	取組	実施に向けて具体化する。 助成金を申請する。
短期	成果	ブラインド向けパソコン教室を実施するについての課題を分析・把握し、その解決に向けての筋道を付ける。 必要な連携先との協働体制を確立する。（行政・社協・ＮＰＯセンター・他ＮＰＯほか）
	取組	ブラインド向けパソコン教室企画に取り組む

この企画は研修部会とは別に、執行部直轄のプロジェクトとして推進します。
今年度は準備期間として各種調査等を入念に行う。
推進キーマンとして　事業総括　　畑　俊治　事業担当理事
　　当事者代表　　岡　道信　受講生に対するピアカウンセリング
　　研修担当　　苅田保志　開発担当理事
　　渉外担当　　中北　清　渉外担当理事

研修会場としてＡＴＣを利用する案が提示された。　稲住会員からＡＴＣに打診する。
また研修は、ぽこあぽこ森野氏にも協力を要請する。
神戸の竹中ナミ氏（プロップステーション）の活動事例も参考とする。
なお、本活動について、以前にボランティア・アドバイザーの会より寄贈いただいた資金を活用するほか、何らかの助成金を申請する。

編集後記　　このロジックモデルはこれで完結ではありません。定期的に見直されるものです。